

編集後記

この報告書は、本学の「復興共生プロジェクト」事業の一つとして発案され、本委員会に編纂を託されたものである。

昨年7月、この企画が具体的なかたちを取り始めた時、本来の紀要の編集・刊行の上に、このような大きな仕事ができるだろうかというのが委員一同の偽らざる気持ちであった。

しかし、「来年の3月刊行」という旗をかかげた以上、一日でも早く前に進まなければならない。その手がかりとして、夏休み前に全教職員を対象にアンケート調査を実施した。これを行ったのは、基本的な事実把握のためであるが、同時に、アンケートに記すことで、本報告書を単なる客観的な事実の羅列にとどめず、全学参加による血の通ったものにしたかったからでもある。あの日のあの時、そして今日に至るまで、それぞれの立場で、どのような困難に直面し、どのような行動を通して、どう対応したか——それが行間から滲み出ればと思った。

8月になり、(株)ユーメディアが版元として決まるとともに、より具体的な仕事の手順・日程の提示となった。それとともに、委員会内に5人からなるワーキング・グループを結成。作業の能率化を図った。

震災直後、大混乱の渦中であって、学内での出来事を冷静な目で詳細に記すことは至難の業であり、公式記録は無いに等しい。そして、当時の記憶は日を追うごとに薄れてゆく。そういった意味で、対策本部につめていた方が書き留めたメモの存在は大きかった。われわれは、そのような人も含めて、責任のある立場にいた教職員にインタビューなどを行い、また資料や記憶をもとに文章を書いていただいた。翌年3月刊行という期限と、薄れゆく記憶、この二つに追われた、言わば時間との戦いであった。

明けて平成24年1月、少しずつ報告書のかたちが見え始めた。いよいよ、初校、再校と神経を使う「詰め」の作業である。われわれは、しだいに、当初の「やるべき大仕事」という義務感を超えて、何とかして後世の役に立つ一冊の本を、という一心で日夜仕事に取り組んだ。

これは、震災を乗り越えた石巻専修大学の全教職員と学生が編み出した記録集である。本学の歴史の一里塚になること、そして何らかの意味で各地の大学や多くの人々の今後の防災を考える上での参考になることを願うものである。

最後に、巻頭言を御寄稿いただいた各位、貴重な資料や証言などを寄せてくださった多くの方々、そして本報告書の刊行にあたって尽力いただいた(株)ユーメディア千葉真也様他スタッフの方々に心より感謝申し上げるしだいである。

石巻専修大学 紀要編集委員長 大津 幸一

紀要編集委員長 大 津 幸 一 (経営学部経営学科教授)
 紀 要 編 集 委 員 山 崎 達 也 (理工学部基礎理学科教授)
 廣 瀬 裕 作 (理工学部基礎理学科准教授)
 高 津 宣 生 (理工学部機械工学科教授)
 望 月 勝 美 (理工学部情報電子工学科教授)
 鈴 木 英 勝 (理工学部生物生産工学科准教授)
 深 川 通 寛 (経営学部経営学科教授)
 小 山 修 一 (経営学部経営学科准教授)
 編 集 ス タ ッ フ 相 澤 浩 美 (事務課)



東日本大震災 石巻専修大学 報告書

2012年3月11日 発行

紀要編集委員長 大 津 幸 一

発 行 石 巻 専 修 大 学

〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1
TEL(0225)22-7711 FAX(0225)22-7710

印 刷 株式会社 ユーメディア

※文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的整備事業」の一環にて実施。